

Studs/ChangeLog

2015-05-22 (Fri)

URL スタイルを変え、lang 選択

www.ruby-lang.org^{*1} のコードを参考に（ほぼそのまま）、ブラウザの言語設定に応じて表示ページを変えるようにした。

それにともない、CGI にページ名を渡す方法も、従来の方式はそのままに PATH_INFO を用いる方法を追加。

/ja/hogehoge としていざしたら、ja_hogehoge, hogehoge, en_hogehoge の順に探す。/xx/hogehoge なら xx_hogehoge, en_hogehoge, hogehoge の順に探すようにした。

こうすることで、多言語対応ページがあればそれが表示され、ないなら存在するページを代替表示するので、徐々に多言語ページを書き足していくことができる。

2015-05-01 (Fri)

MathJax 参照 URL の変更

以下の URL で参照していた MathJax.js を https で参照するように変更した。<http://cdn.mathjax.org/mathjax/latest/MathJax.js> studs サイトを https で参照するようにした場合に、MathJax.js を http でアクセスしていたらブラウザが Javascript を信用しないらしかったので。

Attached Image への xbb 実行

xbb の実行漏れがあったので修正。xbb をあらかじめ実行していなくても大丈夫な環境と、そうでない環境があるみたい。さくらは後者なので PDF 作成に失敗することがあって発覚。

2015-04-26 (Sun)

前方参照の解決

いままで、ref コマンドでは前方参照が解決できなかったが、それを仕様にしてしまうのは不便なので、解決できるようにしたい。

2 パスにせざるを得ないのだが、どうやるかが問題。1 パス目で未解決のものだけ残しておいて、最後に置換することも考えたが、残しておく方法として完全な解はないし、あまり凝ったこともしたくない。

そこで、未解決ラベルがあったときには、1 パス目で解決済みの辞書をつかって、まったく同じ処理をもう一度実行することにした。(La)TeX 式でいいかなと思って。

ただ、parse_html は並列に実行されるかもしれないのに、処理中にいろいろファイルを作成する（例：dot の出力など）のが気になる。ひとつのページの parse_html が同時に走らないよう、排他制御をいれたいところ。

*1 <http://www.ruby-lang.org/>

lock/unlock_htmlgen

そういうわけで、save_file, save_page と view (html の生成) が排他になるようにロックをとることにした。
また、そうすると、個々のファイル書き込み時の flock は冗長となり不要だとは思いますが、害はないので入れておくことにする。

番号付きリストの開始条件

2 つまえの節の第 2 段落や、この段落のように、半角数字から始まる段落が番号つきリストと誤判定されていたのを直した。

table の summary 属性廃止

HTML5 Validator によると、table 要素の summary 属性つけるのはもう古いとのことなので、やめた。